

倫理

第4問 問1

考え方を会話文の文脈に照らして論理的に考察する問題

第4問 高校生JとKが倫理の授業の予習をしているときに交わした次の会話を読み、後の問い(問1～9)に答えよ。なお、会話と問いのJとKは各々全て同じ人物である。(配点 28)

- J: うーん、今回の授業で扱う①未来世代に対する責任ってよく分からないなあ。
 K: 後の世代のためによいことをしなければいけない、というのは当然じゃない?
 J: その人たちに何がよいのかなんて、今の私たちに分かる? 私には②ネットがない生活なんて耐えられないけど、この気持ちは昔の人には分からなかったでしょ。未来の人はまた違うことを望むはずで、それは予想できないよね。
 K: 変わらないこともあるよ。誰だって衣食住や自由が必要だし、③子どもは大人に守ってもらわないと。それに安全な④環境や社会がなければ不安だよ。
 J: でも、私個人の⑤行動が、未来の人の生活に影響することなんてあるのかな。
 K: 一人ひとりの廃棄で川や海にプラスチックが溜まり、電気やガスの使い過ぎで⑥温暖化も進んだ、と授業で習ったね。個人の行動も未来に影響はするよ。
 J: なるほど。だけど、そもそも私たちに未来世代に対する責任があるのかなあ。この責任を負う相手には、遠い⑦将来の人だって含まれるかもしれないわけでしょ。そんな赤の他人になぜ何かをしてあげなければいけないのかな?
 K: そういう人を思いやるのは難しいけど、それって何もしないことの言い訳になる? 遠い未来に生まれるとしても私たちと同じ人間なんだから、⑧道徳的に考えると、その人たちの利害も私たちのものと同様に重要なんじゃないの。
 J: うーん、まだ存在もしていない人の利害よりも、いま現に生きている人の利害の方が大事な気がする。それに、同世代の人に何かよいことをするならお返しをしてもらえる可能性があるけど、未来世代の人からは何も返してもらえないよ。一方的な自己犠牲をしなきゃいけないの?
 K: それは本当に「一方的な自己犠牲」のかな。違うと思うよ。私たちが有限な人生を生きることを意味や幸福って、誰かが私たちの遺産を引き継いで幸せに生きていってくれるっていう期待にかかっているんじゃないの。
 J: ⑨後を継ぐ人がいないとしても、自分らしく生きられるのなら、それで十分だと思うけど。まだ納得できないから、明日、授業を受けてからまた話そう。

問1 下線部⑨に関して、次のメモは、授業の前夜にKが自分の考えをまとめたものである。68ページの会話を踏まえて、メモ中の a・b に入る語句の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

25

メモ

未来世代に対する責任の重要性を説いた思想家として、ヨナスが挙げられる。私たちが、自然を危機的なまでに傷つけ人類を減らすことができる科学技術を手にしていることが、彼の議論の背景にある。a ことも、彼と同様の考えに基づくものだったようだ。さらにヨナスは、私たちの行為と技術の影響を、遠い未来に及ぶものでも、できる限り知らなければならぬと主張した。これは、Jに伝えた、b という私の考えと同じ発想に基づいていたようだ。でも、科学技術とその利用の影響について知るための教育の機会が得られない人だって多い。現在の問題にも取り組まないと、未来世代に対する責任は果たせないということか。

- ① a 国連人間環境会議で「持続可能な開発」が提唱された
 b 遠い将来の人であっても、私たちの行為で被害を受けることがある
 ② a 国連人間環境会議で「持続可能な開発」が提唱された
 b 未来の人を援けることは、見返りのない義務なのだ
 ③ a ハーディンが地球を宇宙船という閉ざされた環境に喩えた
 b 遠い将来の人であっても、私たちの行為で被害を受けることがある
 ④ a ハーディンが地球を宇宙船という閉ざされた環境に喩えた
 b 未来の人を援けることは、見返りのない義務なのだ
 ⑤ a ラッセルとアインシュタインが核兵器の廃絶を主張した
 b 遠い将来の人であっても、私たちの行為で被害を受けることがある
 ⑥ a ラッセルとアインシュタインが核兵器の廃絶を主張した
 b 未来の人を援けることは、見返りのない義務なのだ

2022年度大学入学共通テスト
「倫理」

受験者数: 21,843人
 平均点: 63.29点
 標準偏差: 17.02

倫理

第4問 問1

考え方を会話文の文脈に照らして論理的に考察する問題

出題の特徴

「未来世代に対する責任」についての生徒同士の会話を踏まえて、ヨナスの思想について考察した高校生Kのメモの空欄に当てはまる記述を選ぶ問題です。現代の諸課題についての正確な知識とともに、会話文のなかのそれぞれの立場を理解し、Kの主張の趣旨を読み取ることで正答に導けたと思います。

従来のような単なる知識のみ、リード文や会話文の趣旨のみを問うのではなく、会話文をもとに、倫理的な見方や考え方を働かせて論理的に考察することができるかが問われました。

指導のご提案

「未来世代に対する責任」について、ヨナスの考えに基づく事例の考察や、会話文のそれぞれの立場を正確に読解したうえで、生徒の主張の論理的な考察ができたかどうかがこの問題の重要なポイントだったと考えられます。

今回の共通テストでも、昨年から出題されているこのような新しい傾向の問題だけでなく、従来のように、思想家や思想内容の基本的理解が問われる問題も出されました。

まずは、重要な用語は、用語を単に覚えるだけでなく、教科書を丁寧に読み込み、その用語の意味や内容まで正確に理解しておくことが必要です。また、同時代の思想家との共通点や相違点、ほかの思想家や思想への影響や批判なども含めて整理し、抽象的な概念を生徒自身が正確に説明できるようにすることで、生徒のより深い理解につながります。

それに加えて、長文の説明文やレポート、資料文や写真など複数の資料を使って、読解力や多面的・多角的に考察する力などが求められるので、教科書や資料集で原典にふれて読解力をつけることが大切です。

また、現代の諸課題について、生徒自身の日常生活に結びつけ、立場や考え方の違いに着目し整理する習慣をつけておくことも必要だと考えられます。



教材のご紹介…「2023共通テスト対策【実力完成 直前演習 倫理】」

資料をもとに空欄に当てはまる語句を論理的に考察する問題

第1回 第2問

第2問 ある大学の授業で、教授が「日本人にとってのあの世」というテーマで学生に次の内容の講義を行った。これを読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

古代の日本には、素朴な信仰としての自然崇拝や祖先崇拝がみられた。これらの信仰にみられる特色は、自然界に存在するあらゆるものには神秘的な生命力が宿っており、それらは、畏怖すべき威力を持つと考えられていたことである。人間も自然界に生きるものとしてその例外ではない。人間の魂は不滅の生命力を宿しており、この世で肉体的な死を迎えると、やがて霊となってあの世に再生し、子孫の守り神となる。さらに、A ①のように、祖先の霊は新しい生命としてこの世に再生することもあるとされた。そこには、人間の生死も自然界の生命活動の循環と同一のものであるという古代人のものの見方がうかがえる。それは、たとえば、民俗学者柳田国男が考察した常民の文化にもみられるように、日本人に固有な生命観をつくりだす原型となる考え方であった。

このような生命観は、古代以降、日本人が、B ②の仏教や儒教という外来文化を受容しながらも、それらを日本独自の文化へとつくりかえていく基本的な枠組みの一つとなった。このことは、平安仏教の思想にもみられる。たとえば、最澄によって開かれた日本天台宗では、「涅槃経」で語られた、C ③の「一切衆生悉有仏性」という教えが、「山川草木悉皆成仏」として説かれていった。そこには、自然界のすべてのものは生命力を宿しているのだから、成仏する可能性を持つものは一切衆生だけではないという考えがある。また、D ④の真言宗を開いた空海は、森羅万象はすべて大日如来のあらわれであるとして密教の教えを説いた。この空海の教えにも、自然界に存在するものすべてには偉大なる生命力が内在しているという考えがみられる。一方、鎌倉期にかけて浄土への信仰や禅の実践による解脱の道を説いた新仏教の教説にも、このような考えは浸透している。たとえば、浄土系宗派の教えでは、E ⑤の「この世の苦しみに悩む衆生を救うことが阿彌陀仏の本願である。極楽に往生しようとする人々は、貴族であれ民衆であれ、阿彌陀仏を信じ、その慈悲のもとでこそ生命が安らかに再生できるものと確信していたのである。

再生を意味する「よみがえる」ということばは、「黄泉の国から帰る」に由来するという説もある。夏に豊かに葉を繁らせた樹木も冬は枯木となるが、春の訪れとともに再び新しい芽が萌え出る。生から死へ、そして死から生へとめぐる自然の永遠の循環こそ、人々があの世を思い信じることの最大よりどころであり、それは自

問8 この講義を参考にしなが、学生Xは「自然の受容と日本人の精神」というレポートを作成した。次の文章は、そのレポートの一部である。F ⑥に入るもの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。16

私は、講義にあったように、日本人の精神のなかに、F ⑥があり、それが日常生活の隅々に生きていて考える。その感覚は日本において長らく農業を中心とした生活のなかで形づくられてきたのである。たとえば、それは安藤昌益が用いている「活真」ということばにもあらわれている。そのことばには、F ⑥ ① という思いが込められているのである。

- ① e 私たちの生きるこの生とその世界での
f 農業はこの世界のま
って成立するもの
の生活を律していく
② e 私たちの生きるこ
の生とその世界での
f すべての人が自ら
根源は土であり、そ
こには上下の差別は
③ e 自然界のあらゆる
力のもとで生と死が
f 農業はこの世界の
ま
って成立するもの
の生活を律していく
④ e 自然界のあらゆる
力のもとで生と死が
f すべての人が自ら土
地を耕す社会こそが
あるべき社会である
。自然の根源は土であり、そ
こには上下の差別は
ない

4つのSTEPで攻略!

- STEP1 設問文から何が問われているかを把握しよう
STEP2 前提となる知識を整理しよう
STEP3 資料を読み取ろう
STEP4 選択肢を確認しよう

解答解説

重要な問題は、ステップを踏んで解説しています

共通テスト 対応力 UP!! 総合性
第2問 問8 [16] 正解④ リード文の趣旨と安藤昌益
STEP1 設問文から何が問われているかを把握しよう
STEP2 前提となる知識を確認しよう
STEP3 資料を読み取ろう
STEP4 選択肢を確認しよう

2023 共通テスト 60分×6冊
倫理
実力完成 | 直前演習

2023版は6月発刊予定で、4月から見本請求の受け付けを開始します。

定価880円(税込み)

誌面・収録回は2022版のものです。